



御釜(宮城県)

ジャピック

財団法人 日本医薬情報センター(JAPIC) 2010 / No.313

JAPIC NEWS

| C | O | N | T | E | N | T | S |

■巻頭言

「私の田舎生活」 日本製薬団体連合会 理事長 木村 政之 2

■インフォメーション

「平成22年度JAPICユーザ会」開催のご案内..... 4

「第134回薬事研究会」を開催します 4

『JAPIC-Qサービス』平成22年度より 一部料金無料化!!
提供内容を充実!!そしてe-mailサービスも開始!! 5

2010年版「医薬品製造承認品目一覧」の発行 5

■トピックス

平成22年度事業計画について 6

「理事会」「評議員会」の概要報告 7

■コラム

最近の話題「トンボの魅力」 ノバルティス ファーマ株式会社 広報担当部長 喜多 英人 8

「重篤副作用疾患別対応マニュアルの活用 -第38回JAPIC医薬情報講座 参加記-」
大正富山医薬品株式会社 安全性情報部 羽生 真樹 10

会員の声「単身赴任の楽しみ」
大鵬薬品工業株式会社 製品情報部医薬品情報室 藤原 耕介 11

くすりの散歩道 No.35「春光に念う -薬剤師の未来」
(財)日本薬剤師研修センター 常務理事 久保 鈴子 12

外国政府等の医薬品・医療機器等の安全性に関する規制措置情報より-(抜粋) 13

■図書館だよりNo.239 ■情報提供一覧 15



私の田舎生活

日本製薬団体連合会 理事長
JAPIC評議員 木村 政之 (Kimura Masayuki)

私の田舎は南信州の飯田

この地域は長野県最南端の飯田市を中心とした地域であり、南アルプスと中央アルプスに挟まれ、その間を天竜川が流れる典型的な河岸段丘の盆地である。山が深いことが特徴で日本で一番の山間僻地といっても過言ではない。その証拠に今や全国で184にまで減った村のうち11村がここにあり、そのほとんどの村が人口千人未満である。

わが高校の校歌では“ああ白雲の谷深く都の塵も通い来ぬ、この山川のうちにこそ誠の丈夫出づるなれ”と歌われていた。この伊那谷の地に私は実家を残しており、日頃は閉めたままにして東京と月に1、2回行き来しながら維持管理している。

この地域は今でこそ桃、りんご、なし等の果樹中心の農業に変わっているがもともとは養蚕の盛んな地域であり、我が家ももとは養蚕農家であった。そのため田畑のほか蔵だの長屋だの今や無用の長物となっているものまであわせて管理していかざるをえない。

片道270キロの道のりを行き来しながらこれを維持管理していくのは並大抵のことではない。よほど楽しみがない限り持続困難である。

そんなことで一昨年楽しみながら田舎暮らしができるようボロ家を別荘風に改築した。これが効果絶大で今では女房も喜んで田舎と一緒に行ってくれるようになっている。

一番の楽しみは野菜作り

田舎と行き来して私が一番の楽しみは、人並みではあるが、自分で野菜を育て収穫してそれを食べることである。とりわけ自分の生まれ育ったその地の土で育った野菜を食べるわけだから、まして体に良いこと請け合いだ。

女房から“あなたには百姓のDNAが流れている”とよく言われるが私は野菜作りが結構うまい。たいがいの野菜はうまく作れるが、いかせん収穫の時期の難しい野菜は無理だ。大きくなりすぎたり、熟しすぎたりして結局無駄にしてしまう。今は多少手抜きをしても遅れても大丈夫な野菜を中心に作るようにしており、じゃがいも、さといも、玉ねぎ、長ねぎ、大根、にんじん、ごぼうなどはほとんど自分で作ったもので間に合わせている。田舎暮らしの良さは旬のもの、自然のもの、完熟したものが食べられることだ。私は田舎にいるとき、毎朝必ず近くの安心市場という、農協婦人部が作っている持ち寄り野菜を売る店(女房もその一員になっている)に顔を出す。そこで掘り出し物を探すのだ。今だとそろそろ山菜の出回る時期だが、例えばわらびにしても最近栽培ものが多い。完熟ものはこういうところでしか手に入らない。完熟ものの代表格はいちごだ。いちごはこのスーパーでも一年中真っ赤に色づいたものが出回っているが熟していないからおいしくない。4月になると田舎では完熟した地物のいちごが出回ってくる。これのおいしいこと。我が家では、このころ出回る不揃いの安いいちごでジャムを作る。こ

れは女房の仕事なのだが、女房の作る手作りジャムは絶品で誠に重宝している。

果物で完熟ものといえば桃だ。桃はすごく傷みやすいので出荷物はまだ硬いうちに収穫する。本当においしい完熟した桃は地元でしか食べられないのだ。というわけで私も桃を自分で何本か作っている。ところが果樹作りの大変なこと。まず消毒と摘果作業。果樹だけは消毒を頻繁にしないとだめなので、これは同級生の福田君（元飯田市収入役で私の農業の先生）をお願いしている。摘果作業は一枝に何個かの実を残してあとを間引く作業であるが、これが根気の要る仕事で5月の連休をこれにあてている。でも2本でギブアップ。あとは福田君に任せてしまった。ここまで苦労して育てた桃の収穫時期は短い。あっというまに熟してしまう。食べごろの桃のおいしいこと。でも2人では食べきれないので残りは安心市場に出している。安心市場といえば女房の名前で桃のほかにも栗、柿（この辺は市田柿の本場）、多少の野菜などを出しており、年間何万円かの稼ぎになる。ささやかなものだが、私にとっては苦労の見返りとしてとても貴重なものである。この安心市場が最近ブームで、休日には名古屋近辺から買出しに来る。

冬の楽しみは薪ストーブ

信州の冬の寒さは厳しく、飯田でも-8℃近くまで下がることある。12月から3月の間は農作業もできないのでその間の楽しみは薪ストーブだ。本来暖をとるための薪ストーブが楽しみというもおかしな話だが、薪ストーブの炎を見ながら気兼ねなくクラシック音楽を聴くのも至福のときである。

ストーブの火付けにはコツがある。まず下に松の枯葉を置く。これは庭の松の剪定のときにとっておく。その上に柿の木の小枝を置く。これは冬の間に拾い集めておく。最後に薪を載せる。ここまでして松の枯葉に火をつければ一気に燃え上がる。問題は薪の確保だ。市販のものを買えばいくら高くついて薪代だけでどれだけかかるかわからない。幸いなことに私の場合、我が家にある古い柿の木を切ったり、近くの果樹園から果樹の廃木を貰い受けたりして焚いている（そのためチェーンソーと薪割り機は必需品）。次の冬に備えていかに薪を確保するか、そん

なことでもいつも頭が一杯だ。その昔燃料が薪しかない時代、薪の確保がいかに大事な仕事であったか先人の苦労がわかりすぎるくらいわかる。

楽あれば苦あり、一番の苦労は草退治

実家を維持していく上で一番の苦労は草退治である。田畑だけでなく庭にも土手にも草は容赦なく生える。6月の梅雨時の草の生長はすさまじく、2、3週間して帰ってみたら野菜は草の中という有様だ。

ここは機械に頼るほかはない。平らなところはトラクター、草刈機を動員し、土手はビーパーを使う（肩にかけて腰まで回すので気をつけないと腰を痛める）。

しかし最後のところは、例えば野菜と野菜の間とか庭の木の下は、手作業でするしかない。汗をダラダラかきながら黙々と、これはもう難行苦行だ。しかもこの時期私の一番苦手な蛇も出るから余計困る。余談になるが、草取りをしていて感じることもある。草も早め早めに取りないと大きくなったらどれだけ労力を要することか、それも草の種類によっても違う。何かある病気の進行と同じではないかという気がしてくる。

最近ますます感傷的に

田舎暮らしをいかに楽しくするか、試行錯誤の繰り返しではあるが健康にも恵まれ、その生活も何とか軌道にのってきた。とともに年のせいか色々と思いを考えることも多くなってきた。帰省するとすぐ仏壇の前に座り祈るようになったし、年々朽ちていく土蔵の壁とひさしを見つめながら私の子供の時代になったらここはどうになってしまうのかと行く末を考えるとときもある。また、大して広くもない土地で農業をしながらよくもこんな蔵を作ったなど先祖の苦労と偉さに思いを馳せたりする。昔のことを思っても、将来のことを考えてもいたしかたないが、こういう感傷にひたることの多い昨今である。



「平成22年度JAPICユーザ会」開催のご案内

平成22年度の「JAPICユーザ会」を下記の要領で開催いたします。

今回は平成22年度JAPICの事業計画概要と新規事業・重点化事業についてご紹介させていただきます。また、特別講演として、東京会場と大阪会場において日本イーライリリー株式会社 佐々木泰彦先生にご講演いただきます。ユーザ会終了後簡単な懇親会も準備しております。多数の皆様のご出席をお待ち申し上げます。

— 記 —

■日時・会場

東京 平成22年6月1日(火) 13:30~18:30 長井記念ホール

大阪 平成22年6月3日(木) 13:30~18:30 大阪ブリーゼプラザ803(大阪市北区梅田2-4-9ブリーゼタワー)

■参加費:無料

■申し込み方法:JAPICホームページ(入力フォーム)からお申込みください

■プログラム:(東京・大阪)

13:00~ 受付開始

13:30~13:50 挨拶、平成22年度事業計画概要

13:50~15:10 各事業の現況と今後の取組み

15:10~15:30 休憩 コーヒータイム

15:30~16:00 事例報告

16:00~17:00 特別講演「欧州製品概要(SmPC)にみる医薬品情報の伝達」

日本イーライリリー株式会社 信頼性保証本部 安全性情報専門課長 佐々木 泰彦 先生

17:00~18:30 懇親会

■お問合せ先:事務局 業務・渉外担当(TEL:0120-181-276)

「第134回薬事研究会」を開催します

■日 時:2010年6月10日(木)13:30~16:30

■会 場:科学技術館 サイエンスホール(東京都千代田区北の丸公園2番1号)TEL:03-3212-8448

■参加費:JAPIC会員 1名 3,000円 非会員 5,000円 (当日会場でございます)

■申し込み方法:JAPICホームページ(入力フォーム)からお申込みください

■お問合せ先:事務局 業務・渉外担当(TEL:0120-181-276)

■プログラム

13:30~13:35 主催者挨拶

13:35~14:25 「欧米におけるリスクマネジメントの現状—米国REMS・PMR、EU-RMPを中心として」

製薬協医薬品評価委員会PMS部会運営幹事 古 閑 晃 先生

14:25~15:15 「医療機関における安全対策、安全性情報伝達について」

虎の門病院薬剤部長 林 昌 洋 先生

15:15~15:30 休憩

15:30~16:30 「みなし販売後の製造販売業者の許可更新について—GQP、GVP適合性調査の結果」

東京都健康安全研究センター広域監視部薬事監視指導課 医薬品監視第3係 係長 小菅 孝恵 先生

*演題、講師、時間等一部変更する場合がありますので、予めご了承下さい

『JAPIC-Qサービス』平成22年度より 一部料金無料化!! 提供内容を充実!!そしてe-mailサービスも開始!!

■提供内容の充実

- ・書誌データに学会開催地を追加します

■e-mailサービスの開始

- ・提供予定の学会名（開催日・開催地など）と雑誌名（巻・号・発行年月など）の情報を検索結果提供の前週金曜日にe-mailでお知らせします

■提供方法にe-mailを追加

- ・従来の提供方法に加え、「書誌・キーワードテキストe-mail」を新設します

■料金改定

【H21年度まで】登録手数料（1成分）	：	10,500円／年間
*更新時には全成分数の登録手数料をいただいております		
変更・削除	：	無料



【H22年度から】成分の新規登録（1成分）	：	10,500円
検索式変更	：	5,250円
削除	：	無料

*更新時の登録手数料は、成分の新規登録・検索式変更以外は発生いたしません!!

*更に「CD-ROM作成料金（4,200円/回）」を廃止しました!!

*料金改定につきまして、詳しくはJAPICホームページをご覧ください。

JAPIC-Qサービス料金表：http://www.japic.or.jp/service/information/japic_q.html

JAPIC-QPlusサービス料金表：<http://www.japic.or.jp/service/information/plus.html>

2010年版「医薬品製造承認品目一覧」の発行

JAPICでは、厚生労働省から日本製薬団体連合会を通じて医薬品の製造承認資料を入手し、JAPICデータベース「SHOUNIN（ショウニン）」（更新月1回）でご提供しており、更に1年分をまとめて「医薬品製造承認品目一覧」（1986年創刊）を作成しております。

この度、厚生労働大臣の承認に係る医薬品（2009年1月から12月までの承認分）を掲載した2010年版を発行致しました。編集内容は、ご利用いただきやすいよう医療用、一般用別に、それぞれ商品名の五十音順で配列しております。

ご購入をご希望の方は、FAXにて下記宛にお申し込み下さい。

■会 員 10,500円／1部 ■非 会 員 21,000円／1部

なお、1931年から2009年12月までに承認された医療用医薬品の「承認品目全データ（テキストデータcsv）」も提供しております。併せてご利用下さい。

■会 員 31,500円（税込） ■非 会 員 52,500円（税込）

*申し込み・お問合せ先：事務局 業務・渉外担当 TEL：0120-181-276 FAX：0120-181-461

■ 平成22年度事業計画について

平成22年度事業計画について、3月12日（金）の第2回（通算第27回）評議員会および3月15日（月）の第3回（通算第114回）理事会において、JAPIC事業計画（案）が討議され承認されましたので概要をお知らせします。

平成22年度は第三期中期三ヵ年計画の最終年になります。重点施策として挙げた3施策の総仕上げを図り、重点事業の中で今年度は特に「海外安全性情報の拡充」、「大規模安全性情報データベースの活用」、「医学・薬学関連学会情報の充実」に注力して事業を遂行してまいります。

I. JAPIC現事業の充実

① 海外安全性情報の拡充

海外文献情報の雑誌範囲を拡大し、これまでの主要医学雑誌（NEJM、BMJ等）からの安全性情報に加え、PubMedを利用して幅広く情報を収集・整理し、医薬品名と副作用及び書誌事項提供を行う。これによって広範囲の海外安全性情報を提供することが可能となる。

こうした海外安全性情報は、誌名を「医薬関連情報」から「JAPIC Pharma Report 海外医薬情報」と変更した月刊誌に掲載すると同時に、JAPIC-Qサービスにも組み込んで新たに提供する。

② 医学・薬学関連学会情報の充実

現在国内における安全性情報入手の一環として収集している医学・薬学関連学会資料について、全文テキスト化を図り、網羅的に保存する。これによって図書館機能の充実を図ると同時に学会活動の支援にもなる。さらに本データは、JAPIC-Qサービスのデータ作成の工程改善にも活用する。

③ 医薬文献・学会情報速報サービス（JAPIC-Q、QX等）関連

平成21年度に開発した新文献情報管理システム（PhaDoMs3）の安定稼働を図り、新システムを活用して副作用用語のMedDRA対応、書誌情報の充実などJAPIC-Qサービスの向上に努める。

④ 個別対応業務拡大

安全性情報を中心に海外文献の代行検索およびJAPIC-Qサービス個別依頼業務の要望が増えている。JAPIC-QXサービス、JDMエクストラサービス同様、ユーザーへの個別対応の事業を推進する。

II. JAPICデータベースの拡大

① 大規模安全性情報データベースの活用

平成21年度にデータベース化したFDAの大規模安全性情報「AERS」データについて、データ更新やデータクリーニングを速やかに行い、メンテナンスの充実を図る。

ユーザーに対してはデータクリーニングを行なったAERSデータの提供、あるいはシグナル検出結果提供等の受託サービスを開始する。本データベースは製薬企業の市販後安全対策や研究開発部門に普及を図りたい。また、医薬品医療機器総合機構の「副作用が疑われる症例報告」のデータベースについても活用と普及を図る。

② JAPICデータベースの有効活用のための医薬品名辞書の共通化について具体化する。

III. JAPICの情報普及および知名度向上

① 添付文書関連情報

従来の「医療用医薬品集」等の書籍に加えて、特に「添付文書データ」及び平成21年度に構築した「相互作用」、「用法用量」、「禁忌」データの普及を図る。併せて「医薬品と対応病名検索システム（病名ナビ）」（WAN版、LAN版）の普及を促進する。また、21年度にデータ化した1931年～2009年の承認情報について、CD-ROMの形で提供し普及を図る。

② JAPIC-Q及びJDM関連

事業の柱であるJAPIC-Qサービス及びJAPIC Daily Mail（JDM）関連事業についてさらなる利用者の拡大を図る。特にJAPIC-Qサービスについては、本年度から新サービスの追加と料金の値下げを行い、普及を促進する。また、昨年度開始したJDMの個別サービス「JDMエクストラサービス」についても普及を促進する。

医療を巡る動きの激しい時代において、医療関係者から要望される情報は益々多様になってきています。当財団は医療関係者のニーズおよび利用し易い医薬品情報を常に念頭に置き、信頼できる医薬品情報を提供する専門センターとして事業を遂行してまいります。会員の皆様におかれましても平成22年度事業計画についてご理解とご助力頂ければ幸いです。

（理事 秋野 けい子）

「理事会」「評議員会」の概要報告

3月12日(金)に本年度第2回評議員会、3月15日(月)に第3回理事会を開催いたしました。議題は以下のとおりであり、すべて原案どおり承認・議決されました。

なお、公益法人改革の対応については、一般財団法人を目指すことで了承されました。

また、理事、監事、評議員については、退任者、新任者のみお知らせします。全名簿はホームページに掲載しております。

平成21年度第2回評議員会(通算第27回)

3月12日(金) 14:00~15:50

当センター3階会議室

【議題】

1. 次期理事・監事の選任について
2. 平成21年度事業報告及び収支状況報告について
3. 平成21年度収支予算の補正(案)について
4. 平成22年度事業計画(案)について
5. 平成22年度収支予算計画(案)について
6. 公益法人改革への対応(案)について
7. その他 維持会員の異動について

平成21年度第3回理事会(通算第114回)

3月15日(月) 15:00~16:55

当センター3階会議室

【議題】

1. 次期評議員の選任について
2. 維持会員の異動承認について
3. 平成21年度事業報告及び収支状況報告について
4. 平成21年度収支予算の補正(案)について
5. 平成22年度事業計画(案)について
6. 平成22年度収支予算計画(案)について
7. 公益法人改革への対応(案)について
8. その他

■理事・評議員の異動

(退任3月31日付 新任4月1日付)

＜評議員＞

- 退任** 樋口 達夫(大塚製薬(株) 取締役)
和田 昌師(鳥居薬品(株) 取締役執行役員
信頼性保証グループリーダー)
- 新任** 岩本 太郎(大塚製薬(株) 代表取締役社長)

＜理事＞

- 退任** 上田 慶二(財東京都保健医療公社 多摩
北部医療センター名誉病院長)
- 加納 則夫(前エーザイ(株) 常務執行役
信頼性保証本部長)
- 塩野 元三(塩野義製薬(株) 代表取締役会長)
- 西浦 忠男(株)スズケン相談役)
- 矢野 純一(日本新薬(株) 取締役研究開発担当)
- 山地 正克(常勤)
- 新任** 秋野 けい子(財日本医薬情報センター 事業部門
医薬文献情報担当部長(海外))(常勤)
- 伊藤 高人(株)スズケン 取締役副社長執行役員)
- 土屋 裕(エーザイ(株) 執行役信頼性保証本部長)
- 吉川 剛兆(塩野義製薬(株) 安全管理部長)

＜監事＞

- 退任** 羽入 直方(社)日本医薬品卸業連合会
専務理事)
- 新任** 和田 昌師(鳥居薬品(株) 取締役執行役員
信頼性保証グループリーダー)

※敬称略・五十音順

最近の話題

トンボの魅力

ノバルティス ファーマ株式会社 広報担当部長 喜多 英人 (Kita Hideto)



日本はこれから若葉でむせかえるような新緑の季節を迎える。私の大好きな季節だ。昔からこの時期は、早苗の候、と言われていたが、早苗とは稲の苗のことを言い、早苗の候といえは、苗代から田んぼに移す頃、すなわち田植えの時期のことを指している。この時期になると、里山の池や小川で可憐な虫たちを見かけることが多くなる。トンボもその代表的な昆虫である。今回は、このようなトンボにまつわる話である。

私は製薬会社で広報という仕事をしている。製薬会社の広報が発する情報は、扱うものが命にかかわるものだけにその責任は重い。そのため、どうしても、ストレスもたまりやすくなる。業務は多岐にわたり、記者会見の設営、取材対応、危機管理、そして社内調整とさまざまである。また、製薬業界も転換期を迎え、新薬価制度、ドラッグラグ解消に向けての国際共同治験、新型インフルエンザワクチンなど、新しい動きや社会的にも関心を集めているものも多く、日々新しいものを吸収していくことが求められる。メディアにきちんと説明できるだけの知識や情報収集力がなければ、メディアの信頼を得てその使命を達成することはできない。ただ、広報は前向きな仕事が多いのも特徴だ。私は今までの経験から、広報の大事な仕事の一つは、会社や組織、製品の魅力を人々に伝えていくことだと思っている。これらの魅力を自分の言葉で伝えることができた時、多くの人の共感を得ることができる。

これから、皆さんにトンボの魅力の一部でも伝えることができれば嬉しいと思う。

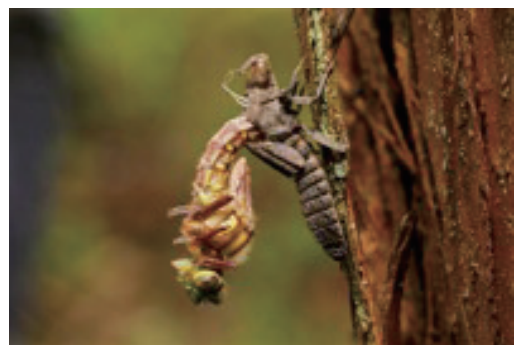
私は日本トンボ学会の会員で、トンボの生態を研究し、生き生きとした自然の姿を写真に納めようと、日本各地を歩いている。今までに北は北海道から南は西表島、小笠原と日本全国をほとんど隈なく歩いた。日本は南北に長く山が多いので、水が豊かで、狭い国土の割には、約200種類が記録されトンボの種類が多いのが特徴である。知床では、あちこちにあるヒゲマの足跡やその気配に脅えながら、寒地系のトンボを追いかけ、小笠原では、筏にエンジンを付けたような小舟で無人島にわた

り、世界中でこの島にしかいないトンボの撮影にも成功した。日本全国、広く分布しているトンボだけではなく、そこに行かなくては出会えないトンボもたくさんいるから大変だ。

私は最初に述べたように、本職は製薬会社の社員であり、トンボの研究は休日を利用した完全な“趣味”である。しかしながら、トンボの魅力に取りつかれ、このようなトンボたちに出会うために、日本全国、トンボ行脚を続けている。趣味というよりライフワークと言ったほうが近いかもしれないが。

いったい、ここまで、私を虜にするトンボの魅力とは何なのだろう。

私はトンボの大きな魅力は、飛ぶ姿にあると思う。トンボは飛行能力に優れた昆虫で、まさに、トンボは飛ぶからトンボであると思っている。トンボの語源も飛ぶ棒からきているという説もあるくらいだ。種類にもよるが、多くのトンボの生活の大半を飛翔行動が占める。



ムカシトンボの羽化 (東京都青梅)

トンボの飛行速度は最大時速100kmくらいになるという。ただ速く飛ぶだけではない。空中で餌を捕まえるなど朝飯前。交尾や産卵まで飛びながら行う種類もいるし、空中の一点で停止するホバリング飛行、その名の通り“トンボ返り”などもお得意である。巧みに飛行する技術は、最新の航空力学でさえかなわない。この秘密は、筋肉の仕組みと翅の動かし方にある。トンボは他の昆虫と違って、4枚の翅それぞれに筋肉がついていて直接動かすことができる。この2対4枚の翅を別々に動かすこと

ができるので、蝶のようにひらひらと上下に波打つことなく、一定の浮力を維持し、トンボらしく直線的に飛ぶことができるのだ。

また、トンボそのものだけではなく、トンボが棲む美しい水辺の環境も魅力だ。今頃の季節に里山に出かけ、さらさらと流れる小川のせせらぎを聞いているだけでも心が癒される。ここに可憐なトンボ達が現れてくれたらもう最高だ。このようにたくさんあるトンボの魅力すべてを、語りつくすことはとうていできない。

私はトンボの魅力を表現するのに、写真撮影をして楽しんでる。私がトンボの撮影を始めた中学生の頃は、もちろんフィルムを使って、いいレンズもなかったので、一眼レフカメラに接写リングを付けて、露出も絞り込み測光で苦労して撮影していた。ところが、今はデジタルカメラ全盛の時代だ。トンボが止まっている写真なら、コンパクトのデジタルカメラや携帯電話のカメラでさえ十分きれいな写真が撮れる。しかし、本格的な生態写真を楽しむというのなら、ある程度の装備は必要となる。デジタル一眼レフに100ミリ前後のマクロレンズ、そして環境を映しこむための広角レンズあるいは魚眼レンズ、ストロボがあるといい。最近ではトンボの専門家でなくても、ホームページで見事な写真を披露している人が多い。デジタルカメラの進歩と普及が、特殊な装備と技術が必要だった昆虫写真を、誰もが気軽に楽しめる身近なものへと変えてくれた。

古来、日本は神武天皇の時代「秋津島」と呼ばれていた。秋津島の「あきつ」は、トンボの古い呼び方で、その由来は、初代天皇とされる神武天皇が飛鳥の丘から見た景色が、トンボが交尾している姿に似ているからだとか、付近を数多くのトンボが群れをなして飛んでいたからだとか諸説がある。また、古事記によると、雄略天皇が吉野で狩りをしていた時に、天皇の腕を刺した虻をトンボが捕まえ捕食した。その時、雄略天皇はこのトンボをたいそう褒め称えたという。この古事記の伝説から、それ以後も、トンボは“勝虫”と呼ばれ、縁起のいい昆虫の代表となった。また、日本ではトンボは、百日咳、扁桃腺炎、ぜんそくなど癆を鎮める薬として民間療法で使用されてきた。黒焼きにしたり、煎じて飲むと効果があるらしい。使われる種類は、赤とんぼの仲間だという。

日本薬学会会頭を務められた緒方 章先生は、赤とんぼの黒焼きに、果たして鎮静効果を示す成分が含まれているかを調べた。



マダラヤンマの交尾 (北海道札幌)

赤とんぼを200～300℃で34時間蒸し焼きにして、これをアルコールで抽出して精製したところ、わずかながら得られたものは気管支筋のけいれんを鎮める効力のあるものであったという。ぜんそくや百日咳に効くと民間で言っていたのも、根も葉もない迷信ではないようだ、ご自身の随筆で述べられている。

また、台湾や中国ではシオカラトンボの仲間などを乾燥して強壯剤として用いていたようだ。さらに、大正時代の調査によると、トンボを食用にもしていたらしい。日本では古くから蝗や蜂の子など、昆虫を食用としてきたが、トンボも昔は貴重なタンパク源であったのかもしれない。

稲が実る秋に、田んぼに「おつながり」となって群れ飛ぶ赤とんぼを見て、古代の人は、まるで赤とんぼが実りを届けてくれたように感じたのではないだろうか。トンボは、昔から我々日本人にとりわけなじみの深い昆虫であったのだろう。童謡でも一番人気は“赤とんぼ”であると聞き、日本人が大切にしている原風景の一つは、実った稲穂に止まる赤とんぼであるらしい。

しかしながら、最近、トンボがいなくなった、という声をよく聞く。水環境が汚染され、開発により日本各地から美しい水辺が失われようとしている。トンボの幼虫(ヤゴ)は水中で成長するから、生息に適した水環境が失われれば、トンボは生活できない。いい生息地も、数年後に行くとまったく環境が変わってしまっているという経験が非常に多い。トンボの姿をめっきり見なくなったのは、このような水環境の変化によるものが大きいと思われる。心を癒してくれる景色としてだけではなく、生命の存続に欠かせない水。トンボが棲めなくなるような環境に、果たして人間だけが健康に生きていけるのだろうか。トンボや自然が、私たち人間に警鐘を鳴らしているような気がしてならない。

重篤副作用疾患別 対応マニュアルの活用

—第38回JAPIC医薬情報講座 参加記—



大正富山医薬品株式会社 安全性情報部
安全性管理グループ 羽生 真樹 (Hanyu Masaki)

大正富山医薬品の羽生と申します。入社2年目になりましたが、まだまだ学ぶべきことが多く、社内外で勉強する機会を利用させて頂いています。この度、第38回JAPIC医薬情報講座に参加させて頂きましたので、仕事の紹介と参加の感想を書かせて頂きます。

弊社は医療用医薬品の販売会社として、抗菌薬を中心とした医薬品の受託販売とこれらの市販後安全管理を行っています。安全性情報部では市販後安全管理に関して、自発報告の収集、品質に関する情報の収集、使用成績調査の実施などを行い、委託会社と連携して安全性情報の伝達を行っています。そのなかで、私は自発報告の収集に係ると共に、社内研修に用いる副作用解説書の見直しと更新を行っています。

副作用は原疾患とは異なる臓器で発現することがある事や、発生頻度が低い副作用は医師や薬剤師から治療方法等について質問される事があることから、副作用解説書を適切な情報の提供や有害事象情報の収集に役立てています。見直しにあたっては、重篤副作用疾患別対応マニュアルを活用させて頂いています。マニュアルでは患者と医療関係者それぞれに対して解説されているため、疾患についての勉強だけでなく、解説の表現方法についても参考にさせて頂いています。しかし、症状や発現機序などについてすぐに理解が追いつかない事がしばしばあり、専門家の先生からお話を伺う機会が欲しいと思っていました。

今回の講習では、安全対策について現状の取組みと展望を各機関の方々からお話いただけること、そして、副作用対応マニュアルの作成に関わった先生方のお話を聴く事が出来ることから、今後の仕事に活かせると思

い、参加させて頂きました。

講習会では各々の機関でご活躍されている講師の方々から直接お話を聴く事が出来、とても充実した2日間となりました。

安全対策に関する各機関の取り組みについては、診療データベースの整備が進められている話や、JAPIC AERSの話聞き、今後は自発報告の質が向上し、シグナル検出の精度が高まっていくだろうという期待を持ちました。また同時に、医療関係者や患者様に提供する情報の量も増える事が予想され、情報提供の方法についても改良していく必要があると感じました。

重篤度マニュアルの解説では、7つの疾患について3名の先生方による解説を聴講しましたが、いずれの先生もご自身が経験された症例を用いて説明して下さい、発現機序と診断基準や症状を関連付けて理解することが出来ました。解説のなかで、患者様が持つ不安についてのお話もあり、医薬品を扱う企業として、常に患者様の立場を考えた情報提供を心掛けなければならない事を再認識する良い機会となりました。

懇親会では、他の会社の安全管理部門の方やJAPIC職員の方々とお話することができ、情報提供に対する思いを伺う事が出来ました。その中で、「安全管理は業界全体で高めなければならないものなので、連携が不可欠。JAPICはその役に立ちたい。」という熱いお言葉が印象的でした。

この講習で得た知識を今後の資料作りに活かし、医療関係者や患者様により良い情報提供が出来るようにしていきたいと思います。このような機会を与えてくださったJAPICの方々に感謝します。ありがとうございました。

会員の声

単身赴任の楽しみ

大鵬薬品工業株式会社 製品情報部医薬品情報室
藤原 耕介 (Fujiwara Kosuke)



大鵬薬品は、昭和38年に設立された比較的歴史の浅い会社です。昭和49年に発売した経口制がん剤フトラフルが契機となり、これをベースとした、より有用性の高い製剤を開発することによりステップアップした経口制がん剤がメインですが、世間では一般用医薬品のチオビタドリンクやハルンケアと言った方が分かり易いでしょうか。

私の所属する製品情報部医薬品情報室は、社内外から寄せられる医療用医薬品に係わる問合せ対応を担当しており、私は、業務をリニューアルした6年余りに東京へ転勤となりました。それまでは、製品を生み出す源流にいたのが、突如として医療現場へ対面させられることとなり、大変に戸惑ったことを覚えています。ただこの戸惑いも、他社で同じ業務を担当する人たちの研究会に参加することによって、対応のスタンスやスキル、効率的なシステム、担当部署としての有るべき姿など多くのことを学ぶなかで少しずつ解消することができ、研究会の方々には感謝、感謝の連続でした。また、問合せ対応に必要な知識を得るため、日本医薬情報センターが開催するJAPIC医薬情報講座にも何度か出かけ、そこで得た知識を生かすことができました。

私は生まれが愛媛、前任地が徳島と根っからの四国人ですが、昨年末から今年にかけてテレビ放映中の「坂の上の雲」が愛媛、「ウェルカム」が徳島、「龍馬伝」が高知といつになく四国が賑わっており嬉しい限りです。「坂の上の雲」の主人公の一人である正岡子規は現代俳句や短歌を切り開きましたが、日本に野球を広めたひとでもあります。子規の幼名が升（のぼる）であり、のぼる⇒野のボール⇒野球となったとの説があり、また、子規が「走者」「打者」「直球」などの用語の訳者であることは、知る人ぞ知る事実なのです。

坂本龍馬については、だれが暗殺したのか？が、今もって謎です。大胆に西郷隆盛（倒幕をねらう隆盛にとって、大政奉還を画策する龍馬が邪魔になった）や後藤象二郎（龍馬の船中八策を、象二郎は自分の案のごとく藩主へ進言しており、龍馬を亡き者にしたかった）の黒幕説もあり、「龍馬伝」ではどのように描かれるのか、またここに岩崎弥太郎がどのように絡むのか絡まないのか興味津々です。

坂本龍馬とくると新撰組ですが、「壬生義士伝」という浅田次郎の小説があります。貧しい生活から妻子を守るため南部藩を脱藩して新撰組に入隊。そこで嫌な仕事も引き受けながら給金を貯め、せっせと盛岡に残した妻子に送り届けた隊士の話で、義のために生き、義のために死んでいったという涙を誘う物語です。浅田次郎の作品は、どれを取っても面白く、スケールの大小を問わず人間ドラマが描かれています。単身赴任の身である私は、徳島へ帰るJAL機内誌に連載の氏のエッセイをいつも楽しみにしています。

東京で生活しているうちにといいながら、あちこち足を伸ばしました。四国で人生の多くを過ごした私にとって、北海道や東北は魅力的で、雪の深さや山の壮大さ、どこまでも真っ直ぐに続く道路には圧倒されました。また、都内にも興味深いところが数多くあります。先日も、30年以上も前の学生時代に柴又帝釈天の参道で出会った飴切りの心地よいリズムをもう一度聴きたくて出かけました。今もリズムカルな飴切りを見ることができました。ただ、感性が無くなったせいか当時覚えたほどの感慨は沸いてこず残念でした。

後1年ほどで徳島に帰ることになりますが、盛んな第九を歌う会（日本での最初の演奏地が徳島県鳴門市です）へ潜入するのも面白いかもと思う、今日この頃です。

くすりの散歩道

NO.35

おも 春光に念う — 薬剤師の未来

(財)日本薬剤師研修センター 常務理事 久保 鈴子 (Kubo Suzuko)



本原稿を書いている今、自宅そばの散歩道の桜が満開です。4年ほど前から始めた朝の散歩では四季それぞれに楽しみがありますが、なんと言っても朝陽に光る桜の下を歩くのは格別です。歩く人も多くなり“おはようございます!”の声も、いつもより弾みます。厚手のコートから春の装いに変えて、気分も高揚する楽しい時期、新年度のスタートです。

さて、平成22年度。政権交代により新しい制度が国民の生活に導入されていますが、薬剤師の世界でも今年度は6年制薬学教育における長期実務実習が開始される画期的な年度です。若葉が目にする頃から薬学生が期待に胸を膨らませて各施設にやってきます。この薬局・病院それぞれ11週間におよぶ実習指導で、既存の薬剤師の実力が試されると考えるのは私だけではないと考えます。私が勤務する(財)日本薬剤師研修センターでは薬学教育6年制に向けての関連法改正時の付帯決議を受けて2つの厚生労働省補助事業を実施してきました。

その1つは、臨床現場で薬学生の指導に当たる「認定実務実習指導薬剤師(以下、指導薬剤師)養成」事業です。平成17年度から平成21年度まで、薬系大学、日本薬剤師会、日本病院薬剤師会等関係団体の協力の下に、薬学生指導方法を習得するためのワークショップと講習会を開催し、平成22年3月末には当初の目標1万名を大きく超える13,791名の指導薬剤師が誕生しました。

形の上では学生受け入れ準備は整ったと言えます。昨年から今年にかけて、学生を長期間現場に送り出す大学の期待と不安、一方で学生指導は初めてという指導薬剤師も多くいることなどから、大学と指導薬剤師との打合せが入念になされている地区も多いと聞いています。

指導薬剤師を養成する側にいた者としては、薬学生が薬剤師という職業に期待と誇りを持てるような実習になることを祈るばかりです。私は若い一時期、友人に誘われて山登りを趣味にしていました。その時学んだことは、理想に近づく最短の道は、一步一步を着実に実行することであるということです。自分ができることを、愛情を持って真剣に学生に伝えることから指導は始まります。指導薬剤師には自信を持ってスタートして頂きたいと考えます。

もう1つの事業は、平成19年度から実施している、既存の4年制薬学教育課程卒業者を対象とした大規模生涯研修「新カリキュラム対応研修」で、既存薬剤師に4年制課程と6年制課程のカリキュラムの差を埋めてもらうことを目的とした事業です。研修センターでは、この研修を修了した方々を対象にその成果を自己評価して頂くためのWebテストを提供し始めました。テストの合格者は、換言すれば6年制課程卒業薬剤師と同等の知識を修得している薬剤師ともいえます。そこで、6年制課程カリキュラムに準拠したテストに合格したことを証明する合格証を発行しています。少しずつ薬剤師の関心が向き始めたようで、受験者も増えつつあります。

生涯研鑽は医療界に身を置く者には義務にも等しいものです。チーム医療推進の旗印の下、医師をはじめとする医療従事者との協働、患者との対話、薬物乱用防止など社会への貢献等、薬剤師の役割に責任ある行動と力量が問われているまっただ中で、薬剤師の未来が春の光のように明るく輝き続けることを念じています。

少し堅い話になってしまいましたが、薬剤師という職業を心から愛する者の今現在の気持ちとしてお許し頂ければ幸いです。

外国政府等の医薬品・医療機器等の 安全性に関する規制措置情報より – (抜粋)

2010年3月1日～3月31日分のJAPIC WEEKLY NEWS (No.245-248)の記事から抜粋

■米FDA

- 米FDA、胸焼け治療薬Kapindex (dexlansoprazole) の名称をDexilantに変更することを承認、投薬過誤を防止するFDAの取り組みの一環として
<<http://www.fda.gov/NewsEvents/Newsroom/PressAnnouncements/ucm203096.htm>>
- WinRho SDF (Rho (D) Immune Globulin Intravenous (Human)) : 血管内溶血のリスクについて
<<http://www.fda.gov/Safety/MedWatch/default.htm>>
- Beckman Coulter Inc.のUniCel DxС Synchron Clinical System - Ion Selective Electrode (ISE) Flow CellのClass I 回収について: 不正確な結果をもたらす可能性があるとして
<<http://www.fda.gov/MedicalDevices/Safety/RecallsCorrectionsRemovals/default.htm>>
- FDA Drug Safety Communication: 経口bisphosphonateと非定型大腿骨転子下骨折に関して安全性評価が進行中
<<http://www.fda.gov/Drugs/DrugSafety/default.htm>>
- 米FDA、Plavix (clopidogrel) の有効性の低下に関する新たな枠組み警告について医療専門家に対し発表
<<http://www.fda.gov/Safety/MedWatch/default.htm>>
- FDA Drug Safety Communication: 高用量Zocor (simvastatin) と筋障害のリスク増大に関して安全性評価が進行中
<<http://www.fda.gov/Safety/MedWatch/default.htm>>
- Medication Guides (アップデート) : Oleptro (trazodone hydrochloride) など
<<http://www.fda.gov/Drugs/DrugSafety/ucm085729.htm>>
- 医薬品安全性監視委員会 (DSB) 会合、会合の概要、2010年2月18日: didanosine など
<<http://www.fda.gov/AboutFDA/CentersOffices/CDER/ucm205766.htm>>

■Health Canada

- 抗生物質Avelox (moxifloxacin) の重度の肝障害の稀なリスクに関する表示の更新
<http://www.hc-sc.gc.ca/ahc-asc/media/advisories-avis/_2010/2010_42-eng.php>
- WinRho SDF (Rho (D) Immune Globulin (Human)) : 免疫性血小板減少性紫斑病 (ITP) 治療における血管内溶血との関連性; 処方情報の改訂
<http://www.hc-sc.gc.ca/dhp-mps/alt_formats/pdf/medeff/winrho_2_nth-aah-eng.pdf>

■英MHRA

- 医療専門家向け医薬品安全性情報（2010年2月発行分）：Rapamune (sirolimus) など
<<http://www.mhra.gov.uk/Safetyinformation/Safetywarningsalertsandrecalls/index.htm>>

■独 BfArM

- Aclasta (活性成分zoledronic acid) に関するRote-Hand-Brief：腎不全および腎機能障害の報告について
<http://www.bfarm.de/cln_029/nn_1194774/DE/Home/startseite__node.html__nnn=true>
- Tamoxifen：SSRIs（セロトニン再取り込み阻害剤）との相互作用
<http://www.bfarm.de/cln_029/nn_1194774/DE/Home/startseite__node.html__nnn=true>

■EU・EMA

- Public statement：Clopidogrelとプロトンポンプ阻害剤の相互作用
<<http://www.ema.europa.eu/humandocs/PDFs/EPAR/Plavix/17494810en.pdf>>
- European Medicines Agency・CHMPの3月会合（2010年3月15日－18日開催）の記者発表：gadolinium含有造影剤など
<<http://www.ema.europa.eu/pdfs/human/press/pr/10757010en.pdf>>

■ニュージーランド Medsafe

- ヒトパピローマウイルスワクチンGardasilに関連して報告された重篤な症例31例に関して
<<http://www.medsafe.govt.nz/hot/media/2010/Gardasil.asp>>

■国際機関 WHO

- WHO Pharmaceuticals Newsletter（2009年、No.6&2010年、No.1）：Benfluorexなど
<http://www.who.int/medicines/publications/newsletter/2009news6_1.pdf>

■医薬品医療機器総合機構

- ジスチグミン臭化物製剤（内用薬）の使用にあたっての留意事項について
<<http://www.info.pmda.go.jp/iyaku/file/h220301-001.pdf>>
- 使用上の注意の改訂指示（平成22年3月23日指示分）：アリピプラゾールなど
<<http://www.info.pmda.go.jp/kaitei/kaitei20100323.html#1>>
- 医療機器の回収に関する情報（2009年度・クラスI）：パラメディックCU-ER1
<<http://www.info.pmda.go.jp/rgo/MainServlet?recallno=1-0758>>

JAPIC事業部門 医薬文献情報（海外）担当

記事詳細およびその他の記事については、JAPIC Daily Mail（有料）もしくはJAPIC WEEKLY NEWS（無料）のサービスをご利用ください（JAPICホームページのサービス紹介：<<http://www.japic.or.jp/service/>> 参照）。JAPIC WEEKLY NEWSサービス提供を御希望の医療機関・大学の方は、事務局業務・渉外担当（TEL 0120-181-276）までご連絡ください。

【新着資料案内 平成22年3月1日～平成22年3月31日受け入れ】

図書館で受け入れた書籍をご紹介します。この情報は附属図書館の蔵書検索 (<http://www.libblabo.jp/japic/home32.stm>) の図書新着案内でもご覧頂けます。これらの書籍をご購入される場合は、直接出版社へお問い合わせください。閲覧をご希望の場合は、JAPIC附属図書館 (TEL 03-5466-1827) までお越し下さい。

〈 配列は書名のアルファベット順 〉

書名	著者名	出版社名	出版年月
Compendium Suisse des Medicaments 2010 31 ed.	Ulrich Schaefer	Documed SA	2009年
Data Book 2010	日本製薬工業協会 広報委員会 編	医薬出版センター	2010年2月
フォーム硬化療法の手引き (第2回ヨーロッパコンセンサスマーケティング2006翻訳版)	岩井武尚、平井正文 監修	日本静脈学会	2010年2月
保険薬事典Plus+ (適応・用法付 薬効別薬価基準) 平成22年4月版	薬業研究会 編	じほう	2010年3月
保険薬事典 薬効別薬価基準 平成22年4月版	薬業研究会 編	じほう	2010年3月
医療用医薬品品質情報集 (平成22年2月版) 付録 日本薬局方外医薬品規格第三部	厚生労働省医薬食品局審査管理課	厚生労働省医薬食品局	2010年2月
JAPIC医療用医薬品集 普及新版 2010	日本医薬情報センター 編集	日本医薬情報センター	2010年3月
科学機器入門 増補改訂版	入江照四 編	東京科学機器協会	2010年3月
科学的根拠に基づく皮膚悪性腫瘍ガイドラインII 皮膚リンパ腫	日本皮膚科学会、日本皮膚悪性腫瘍学会 編	金原出版	2010年1月
L'Informatore Farmaceutico 2010 70 edizione	Wubbo Tempel	Elsevier S.r.l	2010年
日本薬局方技術情報 2010 追補 (JPTI 2010) 第十五改正第一追補/第二追補対応	財団法人日本公定書協会 編	じほう	2010年2月
野村総合研究所はこうして紙を無くした!	野村総合研究所ノンペーパー推進委員会	(株)アスキー・メディアワークス	2010年2月
Patient-FASS 2010	LIF	LIF (Lakemedelsindustriforeningen)	2010年
ペインクリニック用語集 改訂第3版	日本ペインクリニック学会用語委員会 編	真興交易医書出版部	2010年2月
薬事関係データ版2009		薬務公報社	2009年12月
薬剤識別コード事典 平成22年改訂版	医薬ジャーナル社編集部	医薬ジャーナル社	2010年2月

情報提供一覧

【平成22年4月1日～4月30日提供】

出版物がお手許に届いていない場合、宛先変更の場合は当センター事務局 業務・渉外担当 (TEL 03-5466-1812) までお知らせ下さい。

情報提供一覧	発行日等	JAPIC作成の医薬品情報データベース	更新日
〈出版物・CD-ROM等〉		〈iyakuSearch〉 Free	http://database.japic.or.jp/
1. [JAPIC Pharma Report-海外医薬情報]	4月2日	1. 医薬文献情報	月 1 回
2. [Regulations View Web版] No.188-189	4月9日-23日	2. 学会演題情報	月 1 回
3. [添付文書入手一覧] 2010年4月分 (HP定期更新情報掲載)	4月30日	3. 医療用医薬品添付文書情報	月 2 回
4. [JAPIC NEWS] No.313 5月号	4月30日	4. 一般用医薬品添付文書情報	月 1 回
5. [JAPIC医療用医薬品集2010] 更新情報2010年4月版	4月30日	5. 臨床試験情報	随 時
6. CD-ROM [医療用・一般用医薬品集インストール版] 2010年4月版	4月30日	6. 日本の新薬	随 時
7. CD-ROM [JAPIC OTC医薬品] 2010年4月版	4月30日	7. 学会開催情報	月 2 回
〈医薬品安全性情報・感染症情報・速報サービス等〉 (FAX、郵送、電子メール等で提供)		8. 医薬品類似名称検索	随 時
1. [JAPIC Pharma Report 海外医薬情報速報] No.728-732 (旧: 医薬関連情報速報FAXサービス)	毎 週	9. 効能効果の対応標準病名	月 1 回
2. [医薬文献・学会情報速報サービス (JAPIC-Qサービス)]	毎 週	〈iyakuSearchPlus〉	http://database.japic.or.jp/nw/index
3. [JAPIC-Q Plusサービス]	毎月第一水曜日	1. 医薬文献情報プラス	月 1 回
4. [外国政府等の医薬品・医療用具の安全性に関する措置情報サービス (JAPIC Daily Mail)] No.2162-2182	毎 日	2. 学会演題情報プラス	月 1 回
5. JAPIC Weekly News No.248-251	毎週木曜日	3. JAPIC Daily Mail DB	毎 日
6. [感染症情報 (JAPIC Daily Mail Plus)] No.336-339	毎週月曜日	4. Regulations View DB (要:ID/PW)	月 2 回
7. [PubMed代行検索サービス]	毎月第一・三水曜日	外部機関から提供しているJAPICデータベース	
8. [JAPIC医療用医薬品集2010] 更新情報Mail 2010年3月版	毎月10日	〈JIP e-infoStreamから提供〉	https://e-infostream.com/
		〈JST JDream II から提供〉	http://pr.jst.go.jp/jdream2/

JAPIC医療用医薬品集の姉妹書
重要事項はそのままにコンパクトで低価格に

医療用医薬品集 普及新版 2010



- ◆35年の伝統を誇る赤ジャピから網羅性を受け継ぎ、国内使用医薬品17,000製品を収録。
- ◆添付文書の重要な項目に絞って掲載。コンパクトで使いやすい。
- ◆JAPIC医療用医薬品集(B5判・約3,300頁)をもとに、投与上必須の効能効果、用法用量、使用上の注意に着目して抜粋。

2010年2月発行 A5判 約1,500頁 / 5,040円(税込)

JAPIC (CD-ROM)

医療用・一般用医薬品集 インストール版



動作環境

	Windows ^{※1}
対応OS	Windows2000 Professional、XP Professional、XP HomeEdition
CPU	Pentiumまたは互換プロセッサ1.0GHz以上
HDD空き領域	700MB以上
メモリ	512MB以上
画面解像度	1024×768pixel以上、約65,000色以上

(Windows Vistaは動作確認済)
※1 Windows版のみの提供となります
(Macintosh版は2009年7月版をもって終了しました。)

年4回発行(1月・4月・7月・10月下旬) 年4回セット購入〔1・4・7・10月〕 定価 15,000円(税込) 定価 25,000円(税込) であれば更にお得です。

- ◆常に最新情報に基づく添付文書情報を収録・検索・表示
 - 医療用医薬品データ(毎版更新)
 - 添付文書PDFファイル*へのリンク機能を搭載
*JAPICが提供している医薬品情報データベースiyakuSearch (http://database.japic.or.jp/)で公開中のもの
 - 一般用医薬品データ(随時更新)
約12,000製品のデータを収録
- ◆継続利用に重点をおいた「院内採用医薬品集編集機能」を搭載



- 〈表示データ〉
- 検索結果一覧(テキスト出力可能)・製品名、会社名、薬効分類、薬価、YJコード、HOT番号、一般名等
 - 本文:医薬品集本文データ(テキスト出力可能)・構造型イメージ
 - 添付文書画像(PDFファイル)・要インターネット接続・医療用医薬品のみ

ジャピック
財団法人 日本医薬情報センター (JAPIC) 編集・発行 TEL 0120-181-276
丸善 出版事業部 発売 TEL 03-3272-0521

上記書籍の他、電子カルテやオーダリングシステムに搭載可能なJAPIC添付文書関連データベース(添付文書データ及び病名データ)の販売も行っております。データの購入希望もしくはお問い合わせはJAPIC (TEL 0120-181-276) まで。

Garden

このコーナーは薬用植物や身近な植物についてのヒトクチメモです。リフレッシュにどうぞ!!

いかりそう

これを知らない薬剤師はいないと思うが、「淫羊藿」が局方に取られたのは最近である。4月から5月にかけて、山路で出会うとはっとする美しさである。しかし、効能の方が先行し、やや、名前負けをしている生薬ではないだろうか? (ky)



JAPICホームページより
http://www.japic.or.jp/

HOME ▶ サービスの紹介 ▶ ガーデン
Topページ右下部の「アイコン」からも閲覧できます。